

# 文化財 ニュース

32 Spring 2024

## 特集

### 【速報】英国大使館跡 の発掘調査

一番町の英国大使館南側の地点で新たな遺跡が発見されました。この場所はこれまでは大使館の一面にあたっており、過去に高層の建築物が建てられていなかったため、土中には遺跡が良好に保存されていました。出土遺構は近世のものが主ですが、縄文・弥生時代の遺構も見つかっています。

本号では、実施中の発掘調査の様子を速報でご紹介します。



英国大使館跡での発掘調査の様子

#### Index

- 1-3 特集  
【速報】英国大使館跡の発掘調査
- 4-5 千代田文化遺産  
看板建築 海老原商店と「海老原家資料」
- 6-7 Chiyodaコレクション  
龍星閣旧蔵の  
竹久夢二作品スクラップブック
- 8 文化財事務室通信  
令和6年度年間スケジュール(予定)



出土した弥生土器

# 【速報】英国大使館跡の発掘調査

## 大使館の地下に残されていた遺跡

今回の遺跡は、英国大使館からの用地売却を受けて進められている開発に先立って、令和5年2月から千代田区が実施した試掘調査によって新たに発見されました。英国大使館のある敷地は、明治5年（1872）に前身である英国公使館が設けられてから、一貫して公使館・大使館として用いられてきたため、開発の影響をほとんど受けてきませんでした。周辺には緑地も多く、特に大使館東側の内堀通りに面した緑地は、かつて駐日英国公使を務めたアーネスト・サトウが植桜したことで知られています。

遺跡は、現在の表土の30～50cm下から見つかりました。この土層は近世～近代の盛土と見られ、建物基礎や井戸、地下室、上水遺構などが構築されていました。調査地点一帯は、近世初期には旗本屋敷として用いられた場所で、17世紀末～18世紀初頭に一時、火除明地（火災が起きた際に江戸城などが類焼しないようにするための空閑地）や薬園として利用されました。その後、再び旗本屋敷・大名屋敷として用いられていました。特に18世紀末からは、調査地点北側が大和新庄藩永井家、南側がのちに七戸藩主になる南部家の屋敷となり、幕末に至っています。



江戸時代 地下室



弥生時代 竪穴建物跡  
長径約10mを測る大形の竪穴建物跡



江戸～大正時代 井戸



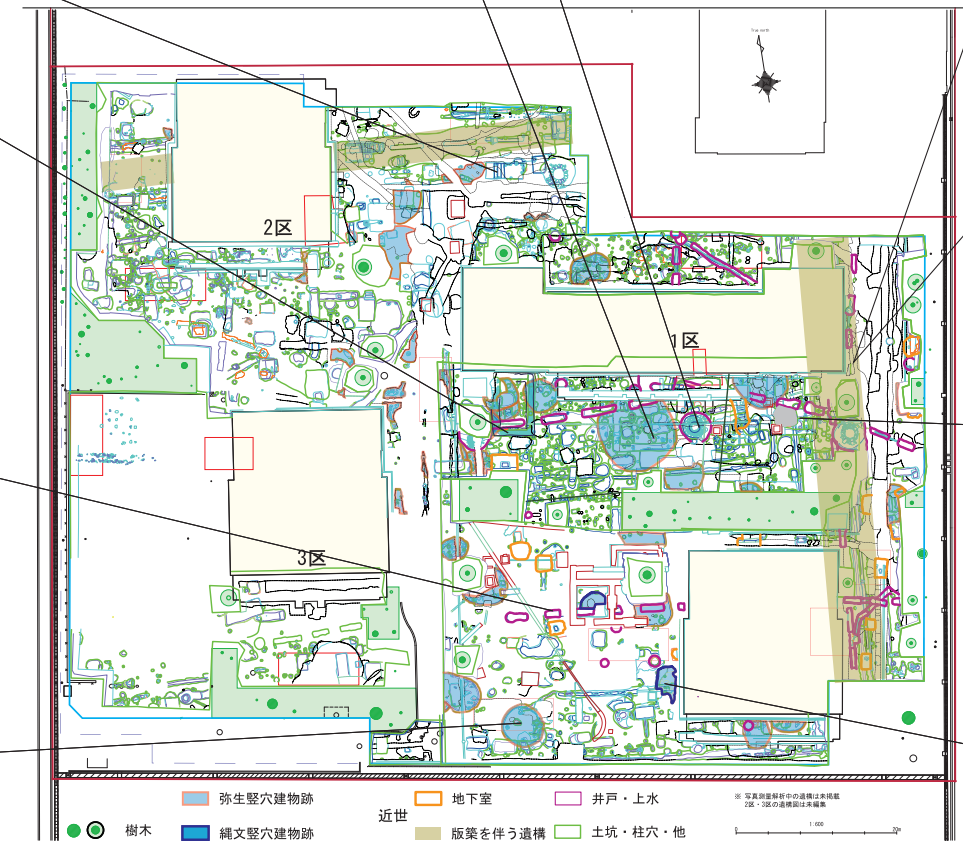
江戸時代 建物基礎



江戸時代 上水木樋



弥生時代 竪穴建物跡




発掘調査遺構分布図

発掘調査地点の状況

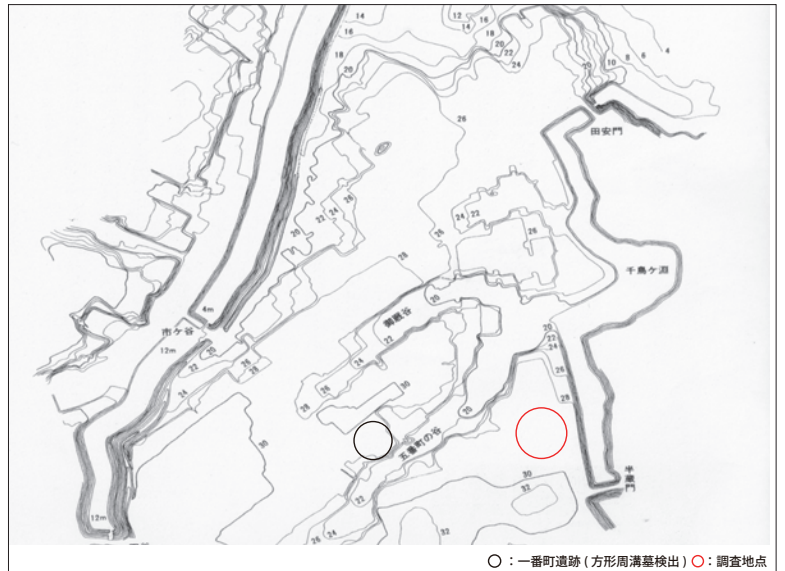
近世～近代の盛土よりも、さらに約 50cm 下には自然の堆積層である関東ローム層が確認されています。この土層からは、縄文時代・弥生時代の住居跡が見つかりました。特に、弥生時代の住居跡は令和 6 年 1 月現在で 40 基以上が見つかっており、区内では最大の遺跡であることがわかりました。

千代田区内は、これまでも近世以降の遺跡などに壊されながら弥生時代の遺跡が部分的に出土するケースがありました。今回の調査地点の近隣では、一番町遺跡（現在の一番町いきいきプラザ）で同時代の方形周溝墓とみられる遺構が見つかっています。2つの遺跡は五番町の谷と呼ばれる支谷の対面に位置しており、今回の発見で弥生時代の人びとの活動域がさらにわかってくるのではないかと考えています。



(学芸員 相場峻)

(学芸員 相場峻)



## 遺跡見学会を開催しました

令和6年2月9日（金）、10日（土）の2日間で遺跡見学会を開催しました。多数の申し込みがあり、当日は437名の方々に遺跡を見ていただきました。

普段なかなか目にすることができない発掘調査中の遺跡を見た参加者からは、「感激した」「教科書でしか見たことがない土器を間近で見られて楽しかった」などの感想が寄せられました。

発掘調査は令和6年4月中旬まで行われる予定で、その後、図面作成や科学分析、文献資料との比較検討などを行って令和8年3月に報告書を刊行する予定です。





秋葉原駅を出て、南にある和泉橋を渡って柳原通りに入ると、タイル張りの特徴あるデザインを持つ建物が目に飛び込んできます。開発の波を潜り抜け、歴史的景観を留めるこの建物は、神田須田町二丁目にある海老原商店です【図1】。

今回は、地域に残る貴重な文化財の海老原商店について、海老原家に残された資料とともに紹介していきます。

【図1】現在の海老原商店外観 令和5年筆者撮影



【図2】神田柳原川岸通りの図 『新撰東京名所図会 神田区之部』、明治33年、東陽堂 個人蔵

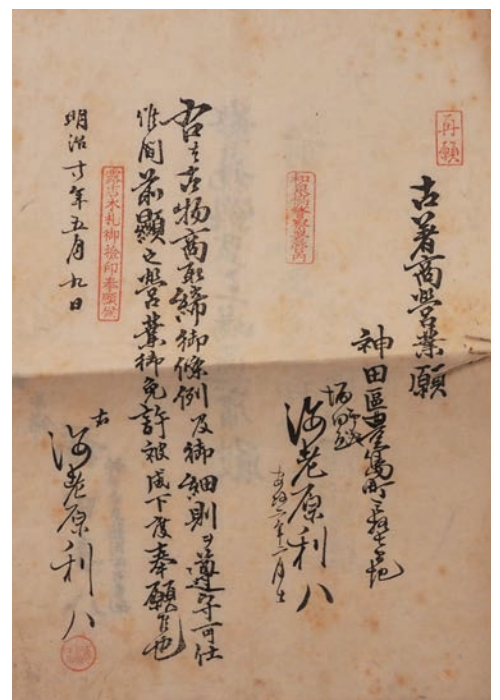
## 海老原商店の始まりと初代利八

海老原商店がある柳原通りは、江戸時代から古着を扱う露店が多く建ち並んでいた場所でした。明治時代以降も古着屋街として継続し、毎日市が立ち賑わいをみせていたといえます【図2】。海老原商店も、この地で古着屋（のちに既製服販売）を営んでいた店舗の一つでした。

海老原商店を始めたのは、海老原利八（1855 - 1932）です【図3】。海老原家資料の中には、利八が古着商を始めた頃の資料が含まれており、古着街に軒を連ねていく様子を知ることができます。利八は、茨城県北相馬郡取手町（現在の茨城県取手市）の出身で、上京して古着商を始めました。明治20年（1887）5月9日付で出された「古着商営業願」【図4】によれば、当時



【図3】海老原利八 昭和初め頃



【図4】「古着商営業願」



は神田区豊島町 37 番地（現在の東神田二丁目）で商売をしていました。その後、明治 30 年（1897）8 月 28 日に、現在地となる神田区柳町 4 番地（現在の神田須田町二丁目 13 番地）に移転してきたようです。

残念ながら商売そのものに関する資料はほとんど残っていません。わずかに残る大正期の帳簿に記載されたメモ書きによれば、商売は順調だったようで、大正 12 年（1923）の震災直前には、営業資本金は 15,000 余円（現在の金額に換算すると約 1,600 万円）となっていました。

## 「看板建築」海老原商店の誕生

現在の海老原商店の建物が出来たのは昭和 3 年（1928）のことです。元の店舗は、大正 12 年（1923）の関東大震災で焼失しました。震災より 2 か月後、店はバラックから再出発しました【図 5】。その後、区画整理を機に建て直され、現在のような姿になりました。

海老原商店のように震災復興期に建てられ、銅板葺きなど特徴的なファサード（正面）を持つ店舗兼住宅を「看板建築」といいます。当時神田区や日本橋区を中心に数多く建てられ、現在も区内では神田神保町や神田多町などで見ることができます。



【図 5】バラック時代の海老原商店  
区画整理により立て直し直前の様子  
2 階部分は大正 14 年に増築している  
昭和 3 年 4 月 28 日撮影



海老原家資料から  
復元した建築当初  
の海老原商店の  
ファサード模型  
千代田区蔵

看板建築のファサードデザインはいずれも個性的です。その理由は、基本的に建築に携わった職人次第だったからです。海老原商店の場合は、知り合いの画家黒沢武之輔がデザインに関わっており、他の建築とは一風変わったおしゃれなデザインに仕上がっています【図 6】。

海老原家資料には、他にも竣工当初の建物図面や写真、区画整理に関する資料が含まれており、震災復興期の個人住宅の建設経過をみることができます。



【図 6】黒沢武之輔のデザイン案

地域の歩みを今に伝える海老原商店は、海老原家資料と共に将来に伝えていくべき大切な文化財です。

（学芸員 山田将之）

（※特に断りがなければ、図は全て海老原家資料より）

## 龍星閣旧蔵の竹久夢二作品スクラップブック

千代田区内の出版社・龍星閣から区に寄贈された竹久夢二（1884－1934）関連の資料群「龍星閣旧蔵竹久夢二コレクション」には、夢二愛好家や龍星閣などの作成した34冊のスクラップブックが含まれます。スクラップブックには、夢二が新聞や雑誌に描いた挿絵や、連載小説の切抜きなどが貼り込まれ、夢二が様々な媒体に多彩な表現を展開した様子を窺い知ることができる内容となっています。

現在のところ、スクラップブック全てに関して、制作年や作成者などの情報や、受贈までの詳細な来歴が判明しているわけではありません。

しかし、スクラップブックには、夢二のコメントが書き込まれたものや、コレクションの作品情報を検討する上で手掛かりとなる情報を読み取れるものが含まれるため、夢二研究の進展に役立つ資料であると言えます。さらに、新聞や雑誌などの挿絵などは、明治時代から大正時代にかけての出版文化を物語る貴重な資料と考えられます。



## 夢二の直筆コメント入りのスクラップブック

寄贈されたスクラップブックには、夢二作品を収集した愛好家が作成したものも含まれます。画家・風俗研究家として知られる岩田準一（1900－1945、旧姓宮瀬）の作成したスクラップブックには、夢二の手によるとされるメモが残されています。岩田は昭和2年（1927）に発行された『夢二抒情画選集』（宝文館刊）の編者であり、そのあとがきによれば、「十五年間細心に蒐めてゐた切抜全部」を画集刊行のために提供したことを述べています。選集に掲載する図版の選定には夢二本人が関与しており、夢二が編集の過程で記したと思われるコメントが残るスクラップブックは、夢二愛好家であり画集刊行にも携わった岩田と夢二の相互交流を示す資料として興味深いものです。



スクラップブック「コマ絵」

これは今見て小生よりある意味で  
うまいものだ。この作者は誰だっ  
たらう。たのんだかもしれない。

夢

24.  
Jun 1926

これは今見て小生よりある意味で  
うまいものだ。この作者は誰だっ  
たらう。たのんだかもしれない。  
夢  
24.  
Jun 1926

大正十二年八月 女学生  
白石実三「地は花咲けり」

大正十二年八月  
白石実三「地は花咲けり」

大正十二年八月 女学生

大正十二年八月  
白石実三



スクラップブック「さしゑとカット」

長編小説  
「地は花咲けり」『女学生』  
大正12年8月（原画）

## 連載小説の挿絵が貼り込まれたスクラップブック







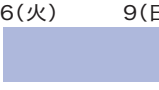




夢二は、新聞や少女雑誌などに掲載される連載小説などの挿絵も手掛けました。区では挿絵の原画を7点所蔵しています。しかし、掲載先の情報が残されていないため、そのうち5点はどの作品の挿絵なのか不明でした。スクラップブック「さしゑとカット」には、そのうちの1点をもとに掲載されたと思われる挿絵の切抜きが貼り込まれていました。切抜きの貼り込まれた見開きには「大正十二年八月 女学生 白石実三「地は花咲けり」と記載があるため、区所蔵の原画は、一連の連載小説のための挿絵として描かれたものと分かります。

スクラップブックには、この他にも雑誌のカットや表紙絵などが豊富に貼り込まれています。新聞や雑誌などのメディアが発達し、印刷出版が盛んに行われた明治時代から大正時代にかけてのイラストやデザインを蒐集したものとしても、注目すべき資料です。

スクラップブックに貼り込まれた切抜きについては現在、1点ずつ記録撮影および資料情報の採集を行っています。スクラップブックの調査が進むことで、龍星閣旧蔵竹久夢二コレクションの実態について、一層明らかになることが期待されます。切抜きは新聞や雑誌などの掲載媒体に分けて再整理した上での情報公開および展示活用を目指し、引き続き作業を進めていきます。

（学芸員 平町 允）

## 令和6年度年間スケジュール（予定）

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
特別展・企画展								2(土) 	15(日) 			
								特別展 「竹久夢二 生誕140周年記念(仮)」				
										8(土) 	24(月) 	
								特別展 「実録桜田門外の変(仮)」				
常設展	16(火) 	9(日) 								21(火) 	16(日) 	
										テーマ展 「日下部鳴鶴(仮)」		

## 文化財講座

講座名	テーマ	開催時期
ちよだの歴史と文化の講座	竹久夢二展の見どころについて（仮）	11月2日（土）
講座名	テーマ	開催時期
手描提灯をつくろう	提灯など昔の灯火具について学び、提灯の文字入れを体験します。	8月頃

※日程の詳細については、別途お問い合わせください。



都営地下鉄 ●三田線「内幸町駅」徒歩3分  
 東京メトロ ●千代田線  
 ●日比谷線  
 ●丸ノ内線  
 「霞ヶ関駅」徒歩5分  
 駐車場 当施設に駐車場はありません。

開館時間 月～金 10時～22時  
 土 10時～19時  
 日・祝 10時～17時

文化財事務局 月～金 10時～18時 文化財ホームページ

※企画展・特別展の観覧時間は異なる場合があります。  
最新情報はホームページ等でご確認ください。

休館日 毎月第3月曜日

文化財ニュース 第32号 (3,000部)

発行日 令和6年3月29日

編集 千代田区立日比谷図書文化館 文化財事務局  
 〒100-0012 東京都千代田区日比谷公園1-4  
 TEL: 03-3502-3348 FAX: 03-3502-3361  
<https://www.edo-chiyoda.jp>

発行 千代田区教育委員会

印刷 日本印刷株式会社

